



エンドユーザの管理

- [エンドユーザ管理の概要 \(1 ページ\)](#)
- [エンドユーザ管理のタスクフロー \(3 ページ\)](#)
- [BLF プレゼンスの連携動作と制限事項 \(15 ページ\)](#)

エンドユーザ管理の概要

IM and Presence Service ノードへユーザを割り当てて、ユーザを IM and Presence Service 用に設定する手順については、以下のガイドを参照してください。

エンドユーザを管理するための管理タスクの一環として、以下のタスクを管理する必要がある場合があります。

- プレゼンス要求を承認するためのデフォルト ポリシーの設定
- 重複した、あるいは無効なユーザ ID およびディレクトリ URI に対してスケジュールされたシステム チェックの設定
- 問題発生時のユーザ ID およびディレクトリ URI の修正

エンドユーザのインポートおよび設定方法の詳細は、*Cisco Unified Communications Manager* システム設定ガイドの「エンドユーザの設定」セクションを参照してください。

ユーザ連絡先リストの一括インポートおよびエクスポートの詳細は、[連絡先リストの一括管理](#)を参照してください。

プレゼンス認証の概要

プレゼンスサブスクリプション要求の場合は、プレゼンス認証ポリシーを割り当てる必要があります。プレゼンス認証ポリシーは、システムレベルで、プレゼンスが要求されているエンドユーザの認証を要求せずに、システム上のエンドユーザが他のエンドユーザのプレゼンスステータスを表示することができるかどうかを決定します。この設定は、**プレゼンス設定**の設定ウィンドウの**確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする**チェックボックスで行います。利用できる設定は、展開されたプロトコルに一部左右されます。

- SIP ベースのクライアントの場合、すべてのプレゼンス登録要求を自動的に承認するように IM and Presence Service を設定する必要があります。でないと、プレゼンスは正しく機能しません（これはデフォルト設定です）。このオプションが設定された場合、IM and Presence Service は1つの例外を除いて、すべての要求を自動的に承認します。例外ケースは、プレゼンスが要求されているユーザが、要求を行うユーザを含むブロック リストを Cisco Jabber クライアントに設定している場合です。この場合、ユーザはプレゼンス要求を承認するように促されます。
- XMPP ベースのクライアントの場合は、IM and Presence Service で他のユーザからのプレゼンス要求を許可するようにユーザに要求するかどうか、あるいはそのプレゼンス要求を自動的に許可するかどうかを設定することができます。



(注) 認可システム設定は、エンドユーザが Cisco Jabber クライアント内で設定可能なユーザ ポリシー設定によって上書きされる場合もあります。

Jabber のユーザ ポリシー設定

プレゼンス要求を承認する際、IM and Presence Service は、ユーザが Cisco Jabber クライアント内で設定したユーザ ポリシーも参照します。エンドユーザは他のユーザをブロック リストに追加して、他のユーザが許可なしにプレゼンス状態を表示できないようにしたり、許可リストに追加して、自身のプレゼンス状態の表示を許可することができます。これらの設定は、システムのデフォルト設定を上書きします。

エンドユーザは、Cisco Jabber クライアント内で以下の事項を設定することができます。

- ブロックリスト：ユーザは、他のユーザ（ローカルユーザと外部ユーザの両方）をブロックリストに追加することができます。ブロックされたユーザのいずれかがそのユーザのプレゼンスを表示した場合、ユーザの実際のステータスとは関係なく、そのユーザの可用性ステータスは常に応対不可として表示されます。ユーザはフェデレーションドメイン全体を拒否することもできます。
- 許可リスト：ユーザは、他のローカルおよび外部のユーザが常に応対可能性の閲覧を許可することができます。外部（フェデレーション）ドメイン全体を許可することもできます。
- デフォルト ポリシー：ユーザのデフォルト ポリシーの設定。ユーザは、すべてのユーザを拒否するか、すべてのユーザを許可するようにポリシーを設定できます。

ユーザ ID およびディレクトリ URI の検証

単一クラスタ展開の場合、同じクラスタ内で重複するユーザを割り当てることはできないため、重複するユーザ ID およびディレクトリ URI は問題にはなりません。ただし、クラスタ間展開の場合、異なるクラスタの異なるユーザに対して、意図せずに同じユーザ ID またはディレクトリ URI 値を割り当てる可能性があります。

IM and Presence Service は、ユーザ ID およびディレクトリ URI の重複を確認するために、以下の検証ツールを提供します。

- Cisco IM and Presence Data Monitor サービス：このサービスを使用して、継続的なシステムチェックを設定することができます。Cisco IM and Presence Data Monitor サービスは、Active Directory エントリで、すべての IM and Presence Service クラスタの重複ユーザ ID および空または重複ディレクトリ URI をチェックします。管理者は、アラームまたはアラートを介して通知を受けることができます。Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool を使用すると、アラームを監視し、重複した UserID および DuplicateDirectoryURI エラーに対して電子メールアラートを設定することができます。
- システムのトラブルシューティング：システムのトラブルシューティングを使用して、ディレクトリ URI およびユーザ ID の重複を含めたシステムのエラーチェックをアドホックに実行する場合は、システムのトラブルシューティングを利用します。トラブルシューティングが詳細を提供するユーザは、最大 10 人までです。システムトラブルシューティングは、Cisco Unified CM IM and Presence の管理インターフェイスからアクセスすることができます（診断 > システムトラブルシューティングを選択します）。
- コマンドラインインターフェイス（CLI）：重複した URI およびユーザ ID の完全で詳細なレポートを入手するには、`utils users validate all` CLI コマンドを実行します。

エンドユーザ管理のタスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	プレゼンス認証ポリシーの割り当て (4 ページ)	プレゼンス サブスクリプション要求用のシステム認証ポリシーを割り当てます。
ステップ 2	ユーザデータのデータ モニタ チェックの設定 (5 ページ)	Cisco IM and Presence Data Monitor サービスを設定して、重複したディレクトリ URI およびユーザ ID の定期的なチェックを実行します。問題が見つかった場合は、システムアラームまたは警告が発せられます。
ステップ 3	システムトラブルシューティングを使用したユーザデータの検証 (7 ページ)	重複したディレクトリ URI やユーザ ID など、システムの問題についてアドホックにチェックを実行する場合は、システムトラブルシューティングを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	CLI からの ユーザ ID およびディレクトリ URI の検証 (8 ページ)	重複したディレクトリ URI およびユーザ ID の詳細なレポートを取得するには、CLI コマンドを実行します。
ステップ 5	ユーザのプレゼンス設定の表示 (12 ページ)	IM and Presence 対応エンドユーザのプレゼンス設定を表示する必要がある場合は、プレゼンス ビューアを使用して、プレゼンス設定を表示することができます。

プレゼンス認証ポリシーの割り当て

プレゼンス サブスクリプション要求用のシステム認証ポリシーを割り当てます。



- (注) Cisco Jabber クライアントで、エンドユーザは、他のユーザが自分のプレゼンス ステータスを表示できるようにするかどうかを設定することができます。このユーザポリシーは、システム認証の設定より優先されます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**プレゼンス > 設定** を選択します。

ステップ 2 確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする **1** チェックボックスをオンあるいはオフにします。

- オン : IM and Presence は、ローカルエンタープライズの SIP ベースのクライアントから受信するすべてのプレゼンス登録要求を許可します。
- オフ : IM and Presence は、プレゼンスを要求されたクライアントに対して、すべてのプレゼンスサブスクリプション要求を参照提示します。ユーザは、要求を承認または拒否することができます。

- (注) SIP ベースのクライアントを展開している場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。チェックボックスをオフのままにした場合、展開は XMPP クライアントのみをサポートします。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 Cisco XCP Router サービスを再起動します。

次のタスク

IM and Presence サービスの SIP パブリッシュ トランクの設定に進みます。

ユーザデータのデータ モニタ チェックの設定

スケジュールされた間隔でディレクトリ URI とユーザ ID を検証するように Cisco IM and Presence Data Monitor を設定するには、以下のタスクを実行します。エラーは、すべて Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool を使用して、アラームまたは警告を介して伝えられます。



(注) 重複したディレクトリ URI および重複したユーザ ID エラーは、クラスタ間の展開の場合にのみ問題となります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ユーザ ID およびディレクトリ URI 検証チェックのスケジュール設定 (5 ページ)	Cisco IM and Presence Data Monitor チェック用のスケジュールされた間隔を設定します。サービスは、active directory エントリのエラー (ディレクトリ Uri とユーザ Id が重複していないか) を確認します。
ステップ 2	電子メールアラート用の電子メールサーバの設定 (6 ページ)	オプション。Data Monitor サービスが重複したディレクトリ URI あるいはユーザ ID を検出した際に電子メールで警告を受信したい場合は、Real-Time Monitoring Tool を使用して電子メールサーバを設定する必要があります。
ステップ 3	電子メールアラートの有効化 (7 ページ)	オプション。DuplicateDirectoryURI および DuplicateUserid アラームの電子メールアラートを有効にするには、以下の手順を実行します。Cisco IM and Presence Data Monitor サービスがこういったアラームのいずれかを返すと、管理者に電子メールが送信されます。

ユーザ ID およびディレクトリ URI 検証チェックのスケジュール設定

Cisco IM and Presence Data Monitor サービスの間隔スケジュールを設定します。このサービスは、重複したディレクトリ URI やユーザ ID を含め、スケジュールされた間隔でデータ エラーをチェックします。このサービスは、エラーが発見されると常に Real-Time Monitoring Tool を介して表示されるアラームまたは警告を発します。

始める前に

Cisco IM and Presence Data Monitor ネットワーク サービスが実行されていなければなりません。デフォルトでは、サービスは実行されています。サービスの実行状況は、Cisco Unified IM and Presence Serviceability インターフェイスの [コントロールセンター-ネットワークサービス] ウィンドウで確認することができます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、システム > サービス パラメータ を選択します。を選択します。
 - ステップ 2** サービス ドロップダウンで、Cisco IM and Presence Data Monitor を選択します。
 - ステップ 3** ユーザ チェック 間隔 フィールドに、間隔を分単位で入力します。5 ~ 1440 (分) の整数を入力することができます。デフォルト値は 30 分です。
 - ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

(省略可) DuplicateDirectoryURI または DuplicateUserid alarm が発動した際に電子メールアラートを設定する場合は、[電子メール アラート用の電子メール サーバの設定 \(6 ページ\)](#)

電子メール アラート用の電子メール サーバの設定

Data Monitor の検証チェックでディレクトリ URI および ユーザ ID の重複エラーが見つかった場合は、管理者に電子メールによる警告を受信する設定にすることを推奨します。この設定を行った場合は、このオプションの手順を使用して、電子メール アラート用に電子メール サーバをセットアップします。

手順

-
- ステップ 1** Real-Time Monitoring Tool のシステム ウィンドウで、[アラート セントラル (Alert Central)] をクリックします。
 - ステップ 2** [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [電子メール サーバの設定 (Config Email Server)] の順に選択します。
 - ステップ 3** [メール サーバ設定 (Mail Server Configuration)] ポップアップで、メール サーバの詳細を入力します。
 - ステップ 4** [OK] をクリックします。
-

次のタスク

[電子メール アラートの有効化 \(7 ページ\)](#)

電子メールアラートの有効化

DuplicateUserID あるいは DuplicateDirectoryURI システム警告が発せられる際に管理者に電子メールを送信するように Real-Time Monitoring Tool を設定するには、以下の手順を使用します。

始める前に

[電子メールアラート用の電子メールサーバの設定 \(6 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1 Real-Time Monitoring Tool の[システム (System)]領域で、[アラートセントラル (Alert Central)] をクリックします。
 - ステップ 2 **IM and Presence** タブをクリックします。
 - ステップ 3 電子メールアラートを追加するアラートをクリックします。たとえば、**DuplicateDirectoryURI** または**DuplicateUserid**システムアラートがあります。
 - ステップ 4 ツール > アラート > アラートアクションの設定を選択します。
 - ステップ 5 [アラートアクション (Alert Action)] ポップアップで、[デフォルト (Default)] を選択して、[編集 (Edit)] をクリックします。
 - ステップ 6 [アラートアクション (Alert Action)] ポップアップで、受信者を追加します。
 - ステップ 7 ポップアップウィンドウで、電子メールアラートを送信するアドレスを入力して、[OK] をクリックします。
 - ステップ 8 [アラートアクション (Alert Action)] ポップアップで、アドレスが[受信者 (Recipients)] に表示されていることと、[有効 (Enable)] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
 - ステップ 9 [OK] をクリックします。
 - ステップ 10 電子メールアラートを有効にするシステムアラート毎にこの手順を繰り返します。
-

システムトラブルシューティングを使用したユーザデータの検証

Cisco Unified CM IM and Presence 管理 GUI でシステムトラブルシューティングを使用することで、重複ユーザ ID および重複ディレクトリ URI チェックのステータスを監視することができます。このトラブルシューティングでは、展開内のすべてのノードおよびクラスタが確認されます。

手順

-
- ステップ 1 **Cisco Unified CM IM and Presence Administration** で、**診断 > システムのトラブルシューティング** を選択します。

ステップ2 ユーザIDとディレクトリURIのステータスを[ユーザトラブルシュータ (User Troubleshooter)] 領域で監視します。システムチェックで何らかの問題が検出された場合は、[問題 (Problem)] 列に表示されます。

- すべてのユーザに一意的ユーザIDが設定されていることを確認します。
- すべてのユーザにディレクトリURIが設定されていることを確認します。
- すべてのユーザに一意的ディレクトリURIが設定されていることを確認します。
- すべてのユーザに有効なディレクトリURIが設定されていることを確認します。
- すべてのユーザに一意的メールIDが設定されていることを確認します。

(注) 重複したメールIDは、フェデレーションと Exchange Calendar の統合機能の両方のメールアドレスに影響を与えます。

ステップ3 問題があった場合は、ソリューション列の修正リンクをクリックすると、ユーザ設定を再構成することができる Cisco Unified Communications Manager の **エンドユーザ設定** ウィンドウにリダイレクトされます。

(注) ユーザプロファイルの [ユーザID (User ID)] フィールドと [ディレクトリURI (Directory URI)] フィールドが LDAP ディレクトリにマップされている場合があります。その場合は、LDAP ディレクトリサーバで修正を適用します。

次のタスク

Cisco Unified Communications Manager の [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ。ユーザが LDAP ディレクトリから同期される場合は、LDAP ディレクトリ内で編集を行う必要があります。

より詳細なレポートが必要な場合は、[CLIからのユーザIDおよびディレクトリURIの検証 \(8 ページ\)](#)。

CLIからのユーザIDおよびディレクトリURIの検証

コマンドラインインターフェイスを使用して、ユーザIDの重複やディレクトリURIの重複がないか、展開の詳細チェックを実行します。

手順

ステップ1 コマンドラインインターフェイスにログインします。

ステップ2 次のいずれかのコマンドを実行します。

- `utils users validate all` : 重複ユーザIDおよびディレクトリURIの両方についてシステムをチェックします。
- `utils users validate userid` : システムでユーザIDが重複していないかどうかを確認します。

- `utils users validate uri` : システムでディレクトリ URI が重複していないかどうかを確認します。

CLI は、重複したディレクトリ URI および/またはユーザ ID のレポートを返します。レポートの例については、以下を参照してください。 [ユーザ ID とディレクトリ URI CLI 検証の例 \(9 ページ\)](#)

次のタスク

問題があった場合、Cisco Unified Communications Manager の [エンドユーザの設定ウィンドウ] のユーザ設定を編集します。ユーザが LDAP ディレクトリから同期される場合は、LDAP ディレクトリ内で編集を行う必要があります。

ユーザ ID とディレクトリ URI CLI 検証の例

重複ユーザ ID と重複または無効なディレクトリ URI が設定されたユーザを識別する IM and Presence サービスのユーザを確認するための CLI コマンドは、`utils users validate { all | userid | uri }` です。

ディレクトリ URI は、ユーザ毎に一意である必要があります。複数のユーザに同じディレクトリ URI を使用することはできません。大文字と小文字の違いがある場合でも、使用できません。たとえば、`aaa@bbb.ccc` と `AAA@BBB.CCC` のように、大文字と小文字の違いはあっても、これらで 2 つの異なるディレクトリ URI を作成することはできません。

CLI とコマンドの説明の使用方法の詳細については、『*Command Line Interface Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。

ユーザ ID エラーを表示する CLI 出力例

```
Users with Duplicate User IDs
-----
User ID: user3
Node Name
cucm-imp-1
cucm-imp-2
```

ディレクトリ URI エラーを表示する CLI 出力例

```
Users with No Directory URI Configured
-----
Node Name: cucm-imp-2
User ID
user4

Users with Invalid Directory URI Configured
-----
Node Name: cucm-imp-2
User ID  Directory URI
user1    asdf@ASDF@asdf@ADSF@cisco

Users with Duplicate Directory URIs
```

```
-----
Directory URI: user1@cisco.com
Node Name   User ID
cucm-imp-1  user4
cucm-imp-2  user3
```

ユーザ ID および ディレクトリ URI エラー

Cisco IM and Presence Data Monitor サービスは、Active ディレクトリ エントリで、すべての IM and Presence Service クラスタの重複ユーザ ID および空または重複ディレクトリ URI をチェックします。重複ユーザ ID またはディレクトリ URI はクラスタ内では無効です。ただし、誤ってクラスタ間展開の異なるクラスタのユーザに同じユーザ ID またはディレクトリ URI 値を割り当てる可能性があります。

以下は、検出される可能性のあるエラーを提示しています。これらのエラーは Real-Time Monitoring Tool で確認することができます。Real-Time Monitoring Tool では、以下の各設定についてアラームあるいは警告が発せられます。

DuplicateDirectoryURI

このアラートは、ディレクトリ URI IM アドレス スキームが設定されている時、同じディレクトリ URI 値が割り当てられているクラスタ間展開内に複数のユーザが設定されていることを示します。

DuplicateDirectoryURIWarning

この警告は userID@ Default_Domain IM アドレス スキームが設定されている時に、同じディレクトリ URI 値が割り当てられているクラスタ間展開内に複数のユーザが設定されていることを示します。

DuplicateUserid

このアラートは、クラスタ間展開内の別のクラスタで 1 人以上のユーザに割り当てられた重複ユーザ ID が設定されていることを示します。

InvalidDirectoryURI

この警告は、ディレクトリ URI IM アドレス スキームが設定されている時、クラスタ間展開内の 1 つ以上のユーザに空または無効なディレクトリ URI 値が割り当てられていることを示します。

InvalidDirectoryURIWarning

このアラートは userID@Default_Domain IM Adress スキームが設定されている時、クラスタ間展開内の 1 つ以上のユーザに空または無効な ディレクトリ URI 値が割り当てられていることを示します。

これらのアラーム条件に関連するユーザの特定情報を収集するには、Command Line Interface を使用して、その完全な一覧を確認してください。システムアラームは、影響を受けるユーザの詳細を提供しません。また、システム トラブルシュータは最大で 10 ユーザのみの詳細を表示します。Command Line Interface を使用してユーザを確認し、アラームが発生しているユーザに関する情報を収集します。詳細については、『*Command Line Interface Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。



注意 影響を受けているユーザの通信の中断を避けるために、重複ユーザ ID および重複しているか無効なディレクトリ URI を解決するための適切な処置をとります。ユーザの連絡先情報を変更するには、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

エラーおよび推奨操作

次の表は、重複ユーザおよび重複または無効なディレクトリ URI のシステム確認をクラスタ間展開で実行するとき起こる可能性のあるユーザ ID とディレクトリ URI のエラー状態を示します。発生するアラームとそのエラーを修正するための推奨措置が一覧表示されます。

表 1: ユーザ ID とディレクトリ URI のエラー状態および推奨される処置

エラー状態	説明	推奨措置
重複ユーザ ID	<p>重複ユーザ ID は、クラスタ間展開内で別のクラスタの 1 人以上のユーザに割り当てられます。影響を受けるユーザが、クラスタ間ピアに配置されている場合があります。</p> <p>関連アラーム :</p> <p>DuplicateUserid</p>	<p>DuplicateUserid アラームが発生したら、問題を修正するために即時に対処してください。クラスタ間展開内の各ユーザは一意的なユーザ ID が必要です。</p>
重複したディレクトリ URI	<p>クラスタ間展開内の複数のユーザに同じディレクトリ URI 値が割り当てられます。影響を受けるユーザが、クラスタ間ピアに配置されている場合があります。</p> <p>関連アラーム :</p> <ul style="list-style-type: none"> • DuplicateDirectoryURI • DuplicateDirectoryURIWarning 	<p>ディレクトリ URI IM アドレススキームを使用するようにシステムが設定されていて、DuplicateDirectoryURI アラームが発生した場合、問題を修正するために即時に対処してください。各ユーザは一意的なディレクトリ URI が割り当てられる必要があります。</p> <p><code>userID@Default_Domain</code> IM アドレススキームを使用するように設定されていて、重複ディレクトリ URI が検出されると、DuplicateDirectoryURIWarning の警告が発生します。即時に対処する必要はありませんが、問題を解決することを推奨します。</p>

エラー状態	説明	推奨措置
無効なディレクトリ URI	<p>展開内の 1 人以上のユーザに無効または空のディレクトリ URI 値が割り当てられます。<i>user@domain</i> 形式でない URI は無効なディレクトリ URI です。影響を受けるユーザが、クラスタ間ピアに配置されている場合があります。</p> <p>関連アラーム：</p> <ul style="list-style-type: none"> InvalidDirectoryURI InvalidDirectoryURIWarning 	<p>ディレクトリ URI IM アドレス スキームを使用するように設定がされていて、次のアラートが発生した場合、問題を修正するために即時に対処します。InvalidDirectoryURI。</p> <p><i>userID@Default_Domain</i> IM アドレス スキームを使用するための設定がされており、無効なディレクトリ URI が検出された場合、InvalidDirectoryURIWarning の警告が発生します。即時に対処する必要はありませんが、問題を解決することを推奨します。</p>

ユーザのプレゼンス設定の表示

プレゼンス ビューアを使用して、IM and Presence が有効なエンドユーザのプレゼンス設定の概要を確認することができます。プレゼンス ビューアは、プレゼンス サーバの割り当て、連絡先、ウォッチャーなどの情報を提供します。

始める前に

Cisco AXL Web サービス、Cisco SIP Proxy サービス、および Cisco Presence Engine サービスは、すべて Cisco Unified Serviceability で実行されていなければなりません。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[ユーザの管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End Users)] を選択します。
 - ステップ 2** 検索 をクリックして、新しい電話機を追加するユーザを選択します。
 - ステップ 3** サービス設定の下のユーザのプレゼンス ビューア をクリックして、プレゼンス ビューアを開きます。ビューをカスタマイズする場合は、以下の表を参照してください。
-

表 2: エンドユーザ プレゼンス ビューアのフィールド

プレゼンス設定	[説明 (Description)]
[User Status]	<p>ユーザのプレゼンス ステータスを特定します。ステータスには、以下があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用可能 • 退席中 • サイレント • 使用不可 • Custom
ユーザー ID	<p>選択したユーザIDを識別します。ユーザの写真を使用できる場合は、ユーザの写真が表示されます。</p> <p>別のユーザ ID を選択するには、送信 をクリックします。</p>
以下の視点での表示	<p>ユーザの視点から応答可能性のステータスを表示するユーザを指定します。これで、指定したユーザーの応答可能性のステータスがウォッチャと呼ばれる別のユーザーにどのように表示されるかを判断することができます。この機能は、たとえば、ユーザがプライバシー ポリシーを設定している場合のデバッグ シナリオで役立ちます。</p> <p>最大 128 文字を使用できます。</p>
連絡先	<p>このユーザの連絡先リストにある連絡先の数が表示されます。</p> <p>特定のユーザ連絡先の応答可能性のステータスを表示するには、[連絡先およびウォッチャ] リスト領域の [連絡先] 見出しの横にある矢印をクリックします。グループ名の横の矢印をクリックして、そのグループ内の連絡先のリストを展開します。</p> <p>グループに属していない連絡先は、連絡先グループリストの下に表示されます。1つの連絡先が複数のグループに所属している場合は、そのユーザの連絡先リストのサイズに対してカウントされるのは一度だけです。</p> <p>エンドユーザに対して設定されている連絡先の最大数を超えると、警告メッセージが表示されます。IM and Presence Service の設定および連絡先の最大設定の詳細は、<i>IM and Presence</i> 管理 オンライン ヘルプ を参照してください。</p>

プレゼンス設定	[説明 (Description)]
ウォッチャ (Watchers)	<p>連絡先リストでこのユーザーの応答可能性のステータスを確認するためにサブスクライブしているウォッチャと呼ばれるユーザのリストを表示します。</p> <p>特定のウォッチャの応答可能性のステータスを表示するには、[連絡先およびウォッチャ] リスト領域の [ウォッチャ] 見出しの横にある矢印をクリックします。グループ名の横にある矢印をクリックして、そのグループ内のウォッチャのリストを展開します。</p> <p>ウォッチャは複数のグループに属することができますが、そのユーザのウォッチャのリスト サイズに対してカウントされるのは一度だけです。</p> <p>エンドユーザ用に設定されているウォッチャの数が上限を超えると、警告メッセージが表示されます。IM and Presence Service の設定およびウォッチャの最大設定の詳細は、<i>IM and Presence</i> 管理 オンラインヘルプを参照してください。</p>
プレゼンスサーバの割り当て	<p>ユーザが割り当てられている IM and Presence Service サーバを識別します。ハイパーリンクを使用すると、サーバの設定ページに直接移動して、詳細を確認することができます。</p>
アクセス可能なプレゼンスアイコンの有効化	<p>このチェックボックスをオンにすると、このエンドユーザのプレゼンス アクセシビリティ アイコンが有効となります。</p>
送信	<p>プレゼンスビューアーを実行する場合に選択します。</p> <p>有効なプレゼンス情報を取得するには、ユーザを IM and Presence ノードに割り当てる必要があります。この機能を実行するには、AXL、プレゼンス エンジン、およびプロキシサービスが IM and Presence サーバ上で実行されている必要があります。</p>

BLF プレゼンスの連携動作と制限事項

機能	制限事項
自動プレゼンス認証の無効化	<p>プレゼンス要求の自動認証をオフにした場合でも、IM and Presence サービスは他のユーザの連絡先リストにあるユーザの登録要求を自動的に許可することに留意します。これは、同じドメイン内のユーザおよび異なるドメイン内のユーザ（フェデレーションユーザ）に適用されます。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザ A が、ユーザ B の返答可能性状況の表示を登録することを望んでいます。自動承認は IM and Presence サービスでオフになっており、ユーザ B はユーザ A の許可リストまたはブロックリストにないとしします。 IM and Presence Service はユーザ B のクライアントアプリケーションにプレゼンス登録要求を送信し、クライアントアプリケーションは登録を許可または拒否するようにユーザ B に求めます。 ユーザ B は、プレゼンス登録要求を受け入れ、ユーザ B はユーザ A の連絡先リストに追加されます。 ユーザ A は、プレゼンス登録を許可するように求められることなく、ユーザ B の連絡先リストに自動的に追加されます。これは、ユーザ B のポリシーが外部ドメインをブロックしている場合、またはユーザ B がユーザー プロファイルで「ask me」を構成している場合でも発生します。
ドメイン間フェデレーション：外部ドメインから受信したプレゼンス要求	<p>IM and Presence は、プレゼンス ステータスが要求されたユーザのユーザ ポリシー設定にのみ依存します。ユーザがユーザ ポリシーで [確認する] を選択していて、そのユーザが外部連絡先またはドメインに対して許可または拒否リストを追加していない場合、IM and Presence はエンドユーザにプレゼンス要求を送信して承認を待ちます。</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。